

会長挨拶

第31回日本乳癌学会学術総会開催に際して

今輝き、未来を拓く ～Evolution and Innovation～ Shine Today, Pioneer the Future: Evolution and Innovation



第31回日本乳癌学会学術総会
会長 大野 真司
(がん研究会有明病院 副院長・乳腺センター長)

第31回日本乳癌学会学術総会を2023年6月29日から7月1日まで、パシフィコ横浜ノースにて開催させていただきます。がん研究会有明病院では、第6回の霞富士雄先生、第24回の岩瀬拓士先生に続き、7年ぶりに担当させていただくこととなりました。大変光栄に存じますとともに施設としても責任の重さを強く感じております。

本総会のテーマは「今輝き、未来を拓く～Evolution and Innovation～」です。乳癌医療は時には著しく、時には緩やかに、確実に進歩してきました。今の医療は先人たちの努力と経験があってこそ発展してきました。そして明日の医療は今日よりも進歩しているでしょうし、進歩していなければなりません。過去を大切に、今を生き、明日を望む「Standing on the shoulder of Giants」の精神で乳癌医療の発展Evolutionに寄与する必要があります。またDigital Transformation (DX)やArtificial Intelligenceなど科学の発展によって今後大きな飛躍Innovationが期待されます。一方、乳癌を患う人とご家族、乳癌に向き合う医療関係者、乳癌に関わる方々、そして社会全体は、今を生きています。今が輝くことで、未来はさらに拓けてくるでしょう。

その未来を担う若い医療者が活躍し、大きく飛躍する場となることを期待できる総会であるよう準備しています。総会は3日間ですが、第30回総会からの1年間を利用することができるようにいくつかの企画を実施しております。オンライン会議・セミナーなどを利用したイベントを利用して総会がより良いものとなるよう考えています。

一般演題では、1,800あまりの応募をいただき、厳選口演・ポスター発表としてご発表いただきます。ポスター発表は、全て紙ポスターといたしました。昨今のe-posterへの切り替え傾向に伴い、ポスター発表の機会が減少しております。本総会では、紙ポスターに戻すことでより多くの方に発表いただけるようにいたしました。

新型コロナウイルス感染拡大によって、人と人が直接会う機会が著しく減ったことは、社会にとっても大きなマイナスとなりました。コミュニケーションにとって何よりも大切な交流が復活できることを願っています。

皆さまの今と未来に役立ち、こころに残る総会となりますよう、ご支援を賜ればと思います。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

実行委員・プログラム委員

会 長 大野 真司 (がん研究会有明病院 乳腺センター)

事務局 長 坂井 威彦 (がん研究会有明病院 乳腺センター 乳腺外科)

学術総会事務局

深田 一平 (がん研究会有明病院 ゲノム診療部・乳腺内科)

鈴木美智子 (がん研究会有明病院 看護部)

学術総会企画委員長

山内 英子 (University of Hawaii Cancer Center, USA)

学術総会企画副委員長

佐治 重衡 (福島県立医科大学 医学部 腫瘍内科学講座)

前・現学術総会企画委員

委 員 相原 智彦 (相原病院 乳腺科)
 太田 智彦 (聖マリアンナ医科大学大学院医学研究科 応用分子腫瘍学)
 印牧 義英 (聖マリアンナ医科大学附属研究所 プレスト&イメージング
 先端医療センター附属クリニック)
 北野 敦子 (聖路加国際病院 腫瘍内科)
 坂井 威彦 (がん研究会有明病院 乳腺センター 乳腺外科)
 佐貫 直子 (市立四日市病院 放射線科)
 武石 優子 (JA秋田厚生連 平鹿総合病院)
 田根 香織 (兵庫県立がんセンター 乳腺外科)
 藤本 浩司 (千葉大学医学部附属病院 乳腺甲状腺外科)
 堀井 理絵 (埼玉県立がんセンター 病理診断科)
 宮本 康敬 (浜松医療センター 薬剤科)
 和田 朝香 (札幌医科大学 消化器・総合、乳腺・内分泌外科学講座)

プログラム委員

青山 陽亮 (がん研究会有明病院 乳腺センター 乳腺内科)
 浅野 舞美 (がん研究会有明病院 薬剤部)
 阿部 朋未 (がん研究会有明病院 乳腺センター 乳腺外科)
 稲荷 均 (がん研究会有明病院 乳腺センター 乳腺外科)
 井上 有香 (がん研究会有明病院 乳腺センター 乳腺外科)
 植木 有紗 (がん研究会有明病院 臨床遺伝医療部)

上野 貴之 (がん研究会有明病院 乳腺センター 乳腺外科)
 植弘奈津恵 (がん研究会有明病院 乳腺センター 乳腺外科)
 大迫 智 (がん研究会有明病院 病理部)
 荻谷 朗子 (日本赤十字社医療センター 乳腺外科)
 尾崎由記範 (がん研究会有明病院 乳腺センター 乳腺内科)
 片岡 明美 (がん研究会有明病院 乳腺センター 乳腺外科)
 加藤千絵子 (がん研究会有明病院 超音波検査部)
 金子 景香 (がん研究会有明病院 臨床遺伝医療部)
 川井 沙織 (がん研究会有明病院 乳腺センター 乳腺内科)
 木澤 莉香 (がん研究会有明病院 乳腺センター 乳腺内科)
 國分 優美 (がん研究会有明病院 超音波診断・IVR部)
 小林 心 (さいたま赤十字病院 腫瘍内科)
 小林 隆之 (がん研究会有明病院 乳腺センター 乳腺内科)
 鈴木 亘 (がん研究会有明病院 薬剤部)
 高野 利実 (がん研究会有明病院 乳腺センター 乳腺内科)
 高橋 洋子 (がん研究会有明病院 乳腺センター 乳腺外科)
 高畑 史子 (がん研究会有明病院 乳腺センター 乳腺外科)
 中島 絵里 (がん研究会有明病院 乳腺センター 乳腺外科)
 中平 詩 (がん研究会有明病院 乳腺センター 乳腺外科)
 中村 暁 (京都大学大学院医学研究科医学統計生物情報学)
 西村 明子 (がん研究会有明病院 乳腺センター 乳腺内科)
 原 文堅 (がん研究会有明病院 乳腺センター 乳腺内科)
 原田亜里咲 (がん研究会有明病院 放射線治療部)
 春山優理恵 (がん研究会有明病院 乳腺センター 乳腺外科)
 細永 真理 (がん研究会有明病院 乳腺センター 乳腺内科)
 前田 哲代 (がん研究会有明病院 乳腺センター 乳腺外科)
 松永 有紀 (がん研究会有明病院 乳腺センター 乳腺外科)
 間森 智加 (真庭市国民健康保険湯原温泉病院)
 宮城 由美 (三井記念病院 乳腺センター)
 矢野 智之 (がん研究会有明病院 形成外科)
 山下 奈真 (がん研究会有明病院 乳腺センター 乳腺外科)
 吉田 和世 (がん研究会有明病院 乳腺センター 乳腺外科)
 吉田 奈央 (がん研究会有明病院 乳腺センター 乳腺外科)
 吉松 英彦 (がん研究会有明病院 形成外科)

(50音順、敬称略)

公募演題採択内訳

公募演題総数	1,792	採択率
採択合計	1,780	99.3%
不採用	4	
取下げ	8	

指定プログラム応募	188	採択率
採択	55	29.3%
一般演題へ	130	
不採用	2	
取下げ	1	

採択合計	1,725	採択率
厳選口演	72	99.5%
ポスター発表	1,653	
不採用	2	
取下げ	7	

査読委員

相原 智彦	上野 貴之	亀井桂太郎	齋村 道代	高野 悠子	長嶋 健	堀口 淳	八十島宏行
青儀健二郎	植松 孝悦	亀井 義明	阪口 晃一	高橋かおる	長島由紀子	堀本 義哉	柳田 康弘
青柳 智義	宇野 智子	唐澤久美子	坂谷 貴司	高橋 雅子	中田 琢巳	本田 純子	柳原 恵子
赤木 謙三	梅田 修洋	河合 賢朗	相良 安昭	高橋 将人	中野 正吾	本多 博	矢野 洋
明石 定子	梅田 朋子	河合 由紀	笹 聡一郎	高原 祥子	中野妃佐恵	本間 尚子	山内 康平
赤羽 和久	江嵐 充治	川口 英俊	佐々木俊則	高山 伸	永橋 昌幸	前田 一郎	山内智香子
安藝 史典	榎本 克久	川口 順敬	笹田 伸介	武井 寛幸	中村 力也	前田 茂人	山内 英子
秋吉清百合	恵美 純子	川島 博子	佐治 重衡	武石 優子	中山 貴寛	前田奈緒子	山神 和彦
麻賀 創太	大岩 幹直	川島 雅央	佐竹 弘子	多田敬一郎	永山 愛子	前田 訓子	山口 美樹
阿南 敬生	大崎 昭彦	川瀬 和美	佐藤 一彦	多田 寛	那須 初子	前田 豪樹	山口 由美
阿部 恭子	大迫 智	川田 将也	佐藤 隆宣	立花和之進	成井 一隆	前田 浩幸	山口 倫
阿部 典恵	大島 一輝	川中 妙子	佐藤 友威	田中顕一郎	新倉 直樹	蒔田益次郎	山下 年成
甘利 正和	大城 智弥	川端 英孝	佐藤 史顕	田中 文恵	西村 顕正	牧野 孝俊	山下 奈真
雨宮 剛	大田 浩司	川村麻里子	佐貫 直子	棚倉 健太	西村 重彦	増野浩二郎	山下 雅子
有馬 信之	太田 智彦	川本 久紀	澤木 正孝	田辺 真彦	西村誠一郎	増田 隆明	山田 顕光
有賀 智之	大竹 徹	神林智寿子	三階 貴史	田辺 裕子	野木 裕子	増田 慎三	山田 公人
安藤 二郎	大谷彰一郎	木川雄一郎	枝園 忠彦	谷岡 真樹	野口英一郎	増田 紘子	山村 順
飯島耕太郎	大坪 竜太	菊池 真理	敷島 裕之	田根 香織	野村 長久	間瀬 隆弘	山本 滋
池田 克美	大友 直樹	菊森 豊根	重川 崇	多根井智紀	橋本 幸直	松井 哲	山本 尚人
石川 孝	大貫 幸二	岸本 昌浩	重松 英朗	田部井 功	長谷川善枝	松井 恒志	山本 裕
石黒 洋	大原 正裕	北川 大	篠崎 恭子	玉城研太郎	服部 裕昭	松浦 一生	山本 豊
石田 孝宣	岡 成光	北田 正博	篠原 範充	田村 宜子	服部 正也	松本 広志	湯川 真生
石飛 真人	小笠原 豊	橋高 信義	柴田 雅央	依矢 香苗	濱本 泰	松本 恵	吉岡 達也
石橋 祐子	岡田 明子	木下 貴之	地曳 典恵	千島 隆司	早川 昌子	丸山修一郎	吉田 達也
石原 和浩	緒方 秀昭	木村 光誠	島 宏彰	塚本 文音	林 直輝	丸山 玲緒	吉田 正行
井関 千裕	岡村 卓穂	九富 五郎	島津 研三	津川浩一郎	林田 哲	三浦 一穂	吉留 克英
磯本 一郎	小川 朋子	國久 智成	清水千佳子	津田 均	速水 亮介	水野 豊	吉永 康熙
板垣 友子	小川 佳成	久芳さやか	下田 雅史	常泉 道子	原 文堅	三塚 幸夫	吉野 裕司
板倉 正幸	荻谷 朗子	久保 真	白石憲史郎	角田 伸行	原尾美智子	三鍋 俊春	芳林 浩史
糸井 尚子	奥野 敏隆	久保田一徳	白石 知大	露木 茂	原田 成美	南 恵樹	吉村 吾郎
伊藤 亜樹	淡河恵津世	窪田 智行	白羽根健吾	鶴田 和裕	坂東 裕子	宮城 由美	吉村 通央
伊藤 研一	尾崎 邦博	栗田 智子	新田 吉陽	鶴谷 純司	曳野 肇	宮坂美和子	米沢 圭
稲垣 由美	尾崎 慎治	久留宮康浩	神野 浩光	手塚 健志	日野 直樹	宮下 美香	米山 公康
稲荷 均	雄谷 純子	黒田 一	菅沼 伸康	寺田かおり	平井 良武	宮下 穰	若原 誠
井上 謙一	小山 徹也	桑山 隆志	杉浦 博士	戸井 雅和	広利 浩一	宮本 康敬	和田 朝香
井上 賢一	海瀬 博史	鯉淵 幸生	杉江 知治	土井 卓子	深光 岳	宮良球一郎	和田 徳昭
井上 慎吾	加々良尚文	古賀健一郎	杉本 健樹	唐 宇飛	藤井 孝明	三好 康雄	渡辺 修
井上 寛章	角川陽一郎	古川 孝広	洲崎 聡	遠山 竜也	藤井 雅和	向井 博文	渡部 一宏
井上 正行	柏木伸一郎	國分 優美	鈴木 昭彦	徳永えり子	藤井 正宏	村上 朱里	渡邊 健一
井上 讓	片岡 明美	越田 佳朋	鈴木 貴	戸崎 光宏	藤田 知之	村田 透	渡邊純一郎
井口 雅史	片岡 正子	小島 誠人	鈴木 正人	利川 千絵	藤原 千三	本吉 愛	渡辺 隆紀
今井 文	片桐 豊雅	小島 康幸	鈴木 真彦	戸畑 利香	伏見 淳	森 毅	渡邊 知映
井本 滋	片寄 喜久	小谷はるる	首藤 昭彦	富口 麻衣	藤光 律子	森 弘樹	渡辺 恵美
岩朝 勤	加藤久美子	小塚 祐司	仙石 紀彦	富田 香	藤本 浩司	森川あけみ	鰐淵 友美
岩井 大	加藤 達史	後藤眞理子	五月女恵一	富永 修盛	二村 学	森口 喜生	
岩熊 伸高	角舎 学行	後藤 由香	平 成人	永井 成勲	船越 真人	森島 宏隆	
岩瀬まどか	金澤麻衣子	小林 心	高木 理恵	長尾 育子	船水まり子	森園 英智	
岩田 広治	金城 和寿	小林 美恵	高島 勉	中川 剛士	古谷 悠子	森田 翠	
岩谷 胤生	印牧 義英	五味 直哉	田頭 尚士	永崎栄次郎	北條 隆	森本 卓	
岩平 佳子	鹿股 直樹	小山 拡史	高田 正泰	中島 一彰	細田 充主	諸 和樹	
岩本 充彦	神尾麻紀子	齋藤佳菜子	高野 利美	中島 一毅	堀井 理絵	安田 有理	

(五十音順、敬称略)

概 要

1. 会 期

現地開催・ライブ配信 : 2023年6月29日(木) ~ 7月1日(土)
オンデマンド配信 : 2023年7月5日(水) ~ 8月31日(木)

2. 会 場

パシフィコ横浜ノース
〒220-0012 横浜市西区みなとみらい1-1-2

3. 会 長

大野 真司(がん研究会 有明病院 副院長・乳腺センター長)

4. テーマ

今輝き、未来を拓く ~Evolution and Innovation~
Shine Today, Pioneer the Future: Evolution and Innovation

5. 学術総会ホームページ

<https://www.congre.co.jp/jbcs2023/>

6. 学会事務局

一般社団法人 日本乳癌学会
〒103-0027 東京都中央区日本橋3-8-16 ぶよおビル3F

7. 運営事務局

第31回日本乳癌学会学術総会 運営事務局
株式会社コングレ
〒103-8276 東京都中央区日本橋3-10-5 オンワードパークビルディング
E-mail: jbcs2023@congre.co.jp

8. 総会期間中の運営本部

パシフィコ横浜ノース 2F G218

9. 学会行事

理事会

6月28日(水) 13:30~14:30
パシフィコ横浜ノース 4F G416+G417

定時総会(旧評議員会)

6月28日(水) 15:00~17:00
第2会場(パシフィコ横浜ノース 1F G8)

総会報告

6月30日(金) 12:30~13:00
第1会場(パシフィコ横浜ノース 1F G7)

10. 教育・研修委員会 共催行事

教育セミナー

【診断編：バイオマーカー判定について】

【治療編：HER2陰性乳癌に対する周術期薬物療法】

6月29日(木)9:40～11:40 第7会場(パシフィコ横浜ノース 4F G403+G404)

看護セミナー

【周術期の薬物療法update - 周術期薬物療法を受ける患者へのケア-】

6月30日(金)9:10～11:10 第7会場(パシフィコ横浜ノース 4F G403+G404)

病理セミナー

	バーチャルスライドコーナー パシフィコ横浜ノース 2F G212	レクチャー 第7会場(パシフィコ横浜ノース 4F G403+G404)
6月29日(木)	9:00～17:00	—
6月30日(金)	9:00～17:00	—
7月1日(土)	8:00～10:00	10:30～11:50

※受講の詳細は学術総会ホームページをご確認ください。

画像診断セミナー

①マンモグラフィ・超音波

	マンモグラフィ・超音波症例揭示コーナー パシフィコ横浜ノース 2F G214 読影	解説 第7会場(パシフィコ横浜ノース 4F G403+G404)
6月29日(木)	9:00～17:00	—
6月30日(金)	9:00～17:00	—
7月1日(土)	—	8:05～9:05

※受講の詳細は学術総会ホームページをご確認ください。

②MRI

	MRI症例揭示コーナー パシフィコ横浜ノース 2F G213 読影	解説 第7会場(パシフィコ横浜ノース 4F G403+G404)
6月29日(木)	9:00～17:00	—
6月30日(金)	9:00～17:00	—
7月1日(土)	—	9:15～10:15

※受講の詳細は学術総会ホームページをご確認ください。

11. 学会関連行事

モーニングセミナー・ランチョンセミナー・イブニングセミナー

	モーニングセミナー	ランチョンセミナー	イブニングセミナー
6月29日(木)	—	12:00～12:50	17:30～18:30 (一部19:00)
6月30日(金)	7:35～8:25	11:30～12:20	18:05～19:05 (一部19:35)
7月1日(土)	7:45～8:35	12:00～12:50	—

併設展示会

パシフィコ横浜ノース 1F G1-G6

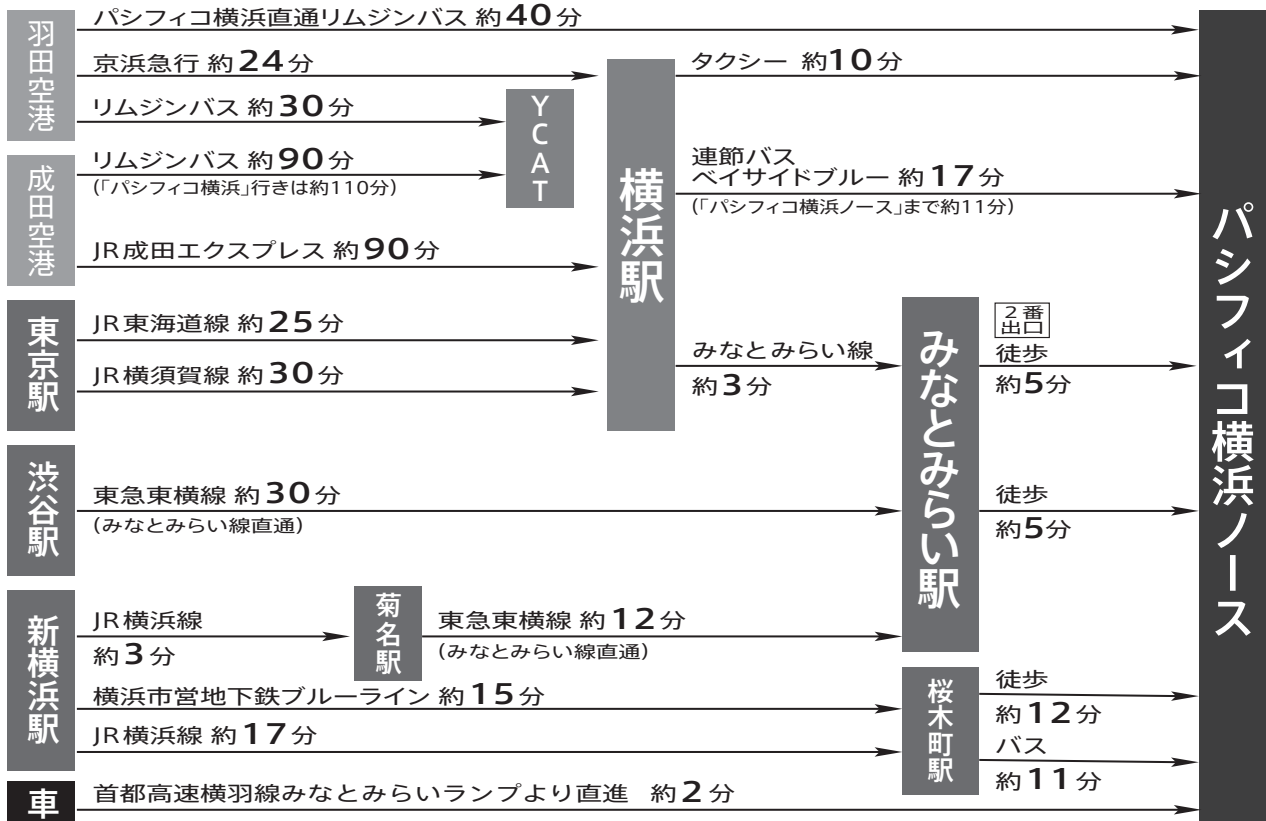
6月29日(木)9:00～17:00

6月30日(金)9:00～17:00

7月1日(土)9:00～13:00

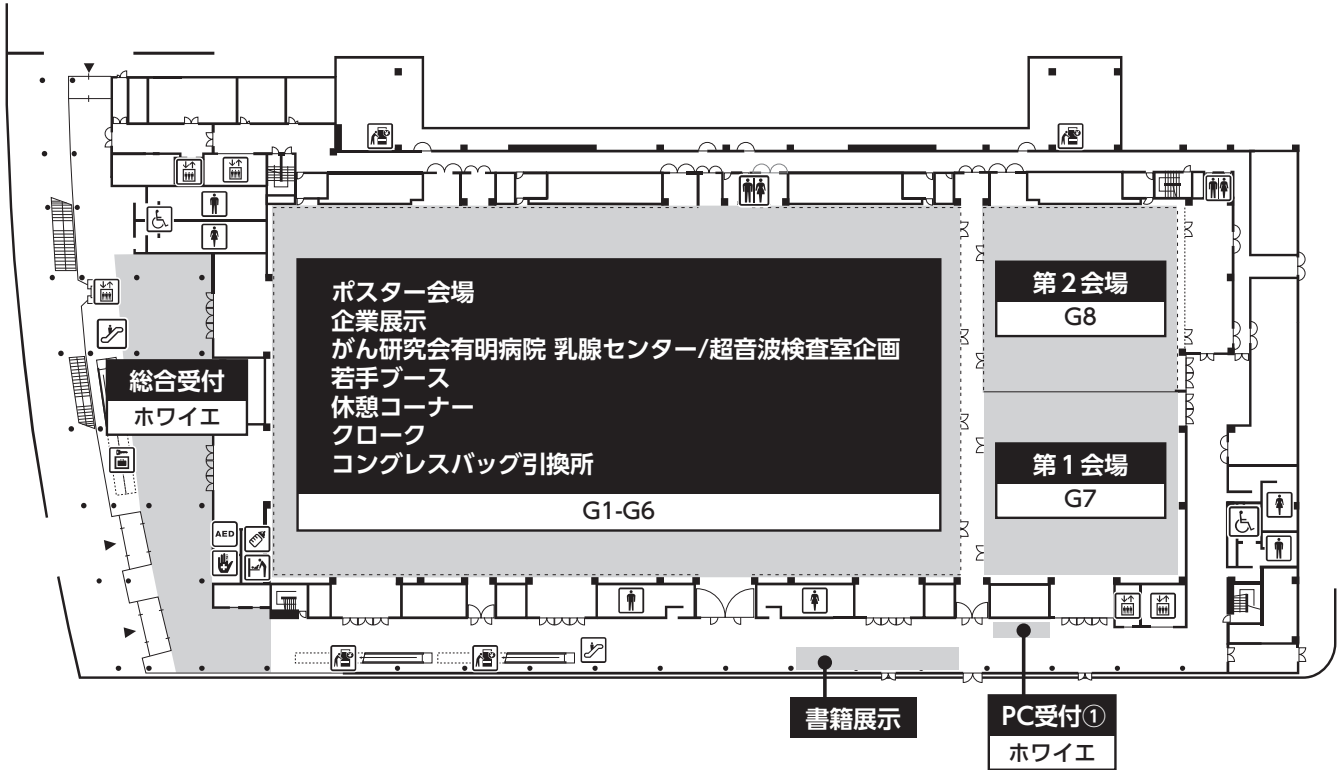
会場へのアクセス

会場周辺および交通のご案内

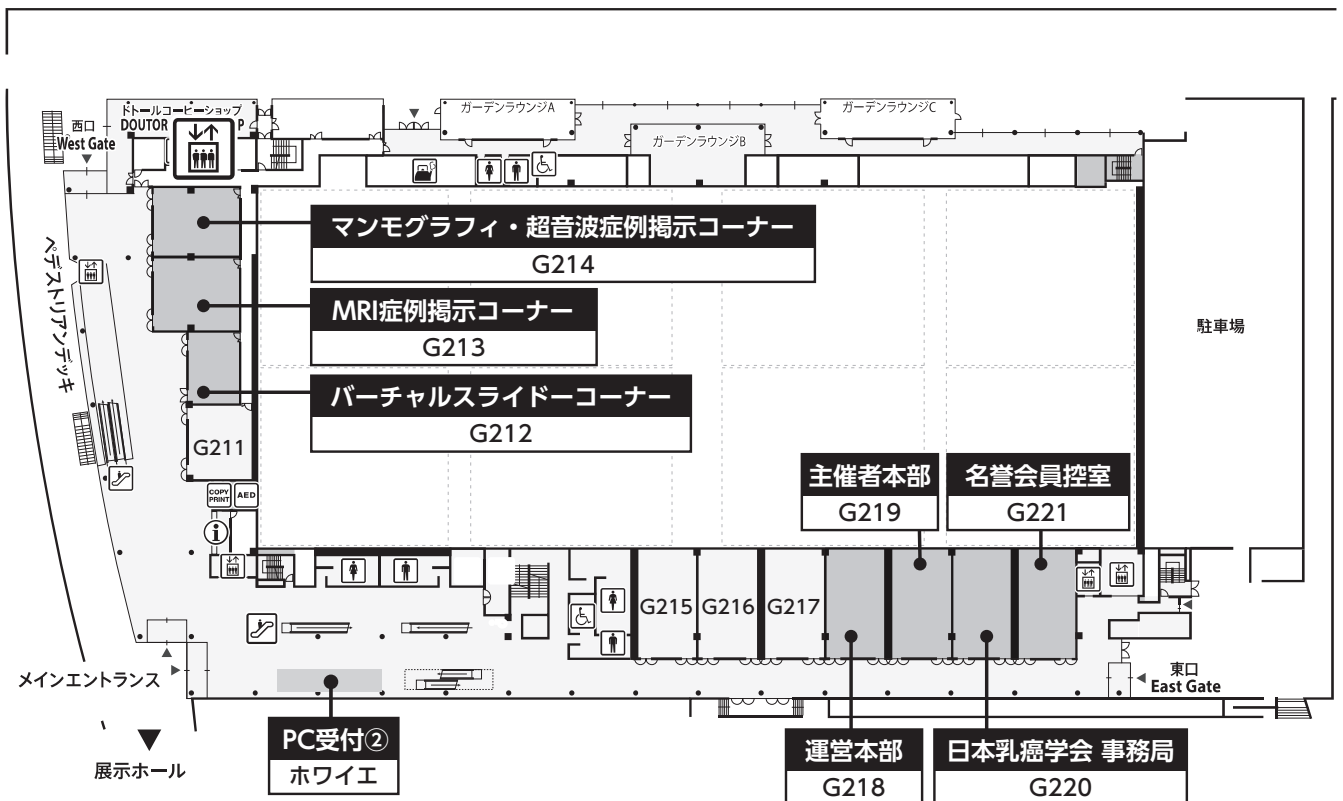


会場内のご案内／パシフィコ横浜ノース

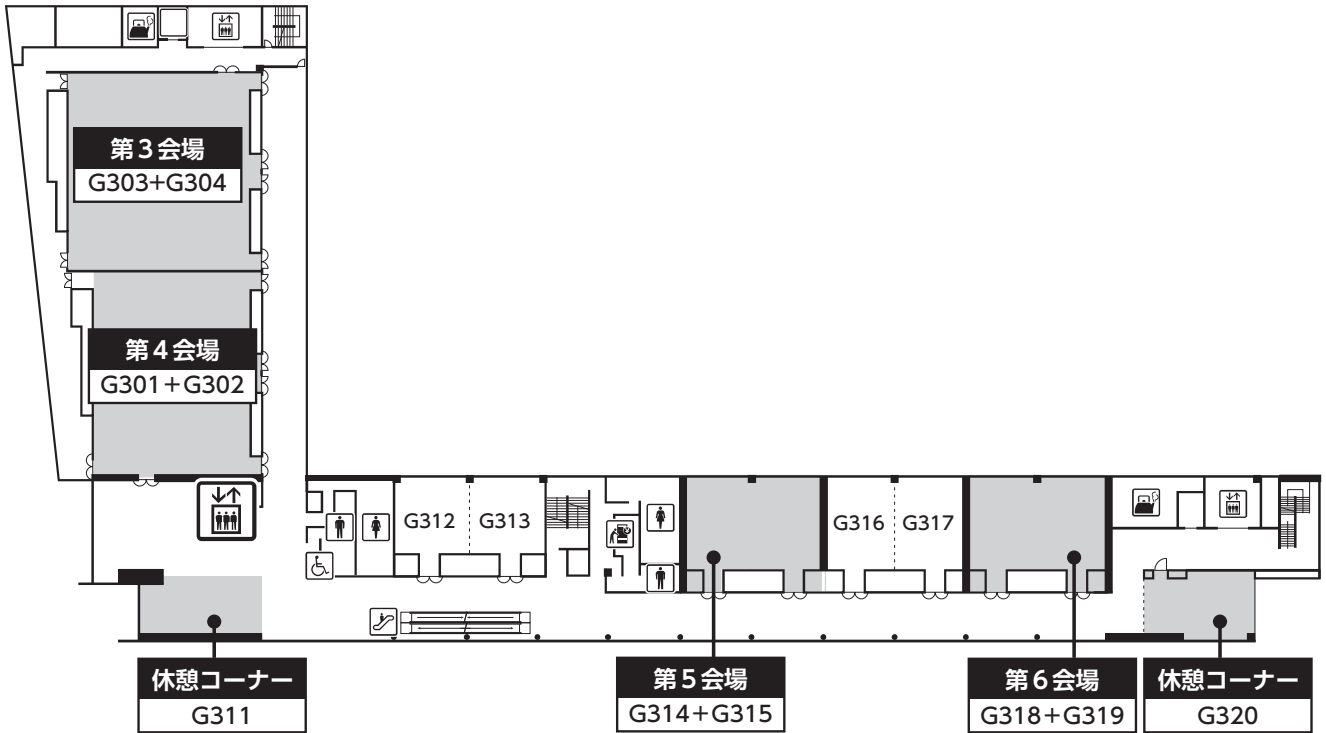
1F



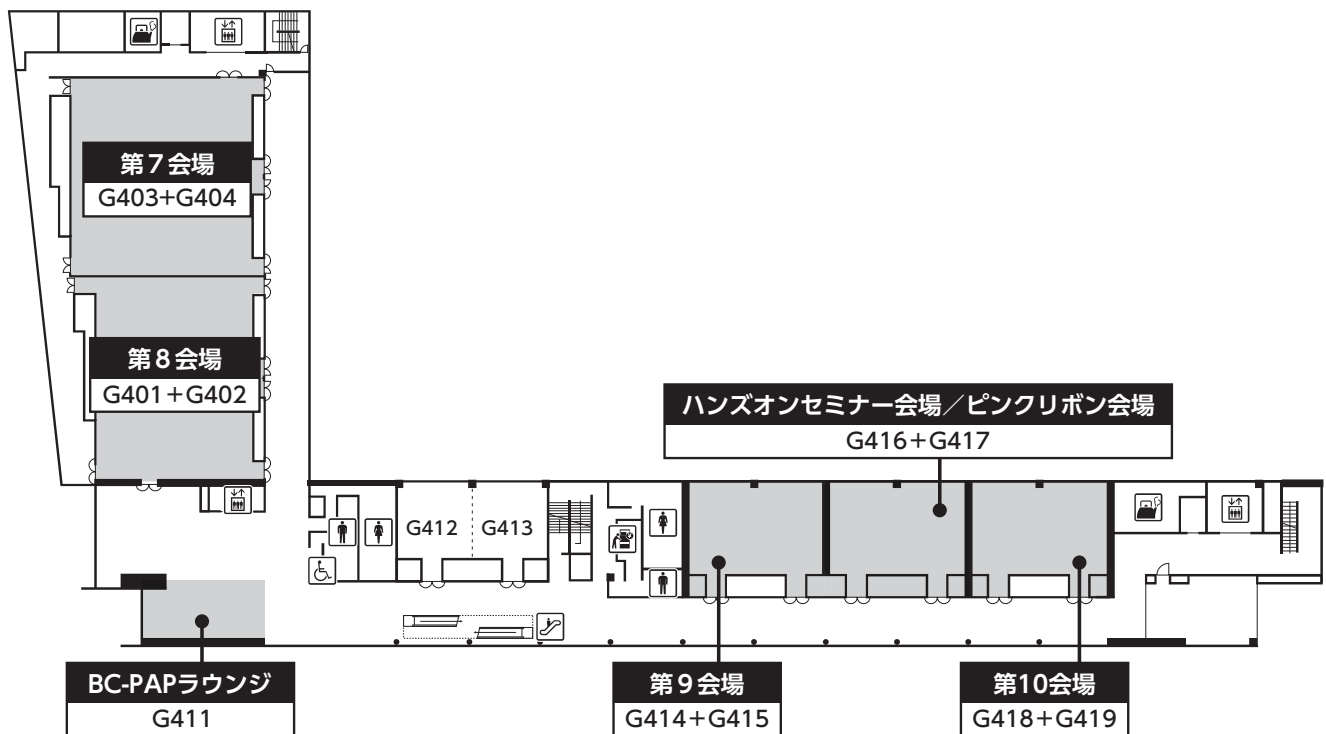
2F



3F



4F



参加者へのお知らせ

1. 開催形態

十分な感染対策を講じた上で、ハイブリッド形式にて開催いたします。教育セミナーや画像診断セミナーなど一部セッションを除き、現地参加とWEB参加、いずれも可能な形式としました。

会期中のライブ配信は、一部の企業セミナーを除き主題セッション・厳選口演が対象となります。なお、教育セミナーや病理セミナー、画像診断セミナーはオンデマンド配信のみとなります。

また、より多くのプログラムをご視聴いただけるよう、会期後には一部のセッションを除き、当日収録したセッションをオンデマンド配信いたします。

配信対象セッションの詳細は、学術総会ホームページにてご案内いたします。

2. オンライン参加登録およびネームカードの発券

本学術総会の参加登録は、オンライン登録制です。当日ご来場いただく場合も、事前にオンラインでの参加登録を行ってください(クレジットカード決済のみ)。

現地参加の方は、参加登録マイページよりネームカード引換券をダウンロードの上、印刷いただくか、スマートフォン・タブレットで表示できるようにご用意ください。

上記QRコードを参加受付機で読み込むことで、ネームカードが発行されます。

なお、領収書は、オンライン参加登録後に付与される「マイページ」よりダウンロードいただけます。

参加証明書は、6月29日(木)から「マイページ」よりダウンロードいただけます。

※8月31日(木)17:00を過ぎますと、参加証明書および領収書の発行はできませんので、必ず期間内にダウンロードをお願いいたします。

〔オンライン参加登録期間〕

2023年5月18日(木)正午～8月31日(木)17:00

参加区分	参加登録	必要な提出物
会員(不課税)	15,000円	—
準会員(不課税)	10,000円	—
非会員(医師・一般・企業)(課税)	25,000円	—
非会員(メディカルスタッフ)(課税)	15,000円	—
初期研修医	—	証明書
学生 ※医学部生・看護学校生等	—	学生証

※初期研修医の方は、オンライン参加登録画面より上長からの「証明書」のスキャンデータをアップロードしてください。証明書のご提出がない場合、初期研修医参加登録費の適用外となりますので、あらかじめご了承ください。

※学生(医学部生・看護学校生等)の方は、オンライン参加登録画面より「学生証」のスキャンデータをアップロードしてください。学生証のご提出がない場合、学生(医学部生・看護学校生等)の適用外となりますので、あらかじめご了承ください。

※ネームカードを着用されていない方の入場は固くお断りいたします。なお、ネームカードの再発行はできませんのでご了承ください。

	BC-PAPのみ参加	BC-PAP+本大会に参加	本大会のみ参加
WEBのみ参加	A 無料	B 5,000円	
現地参加 ※学会終了後、オンデマンドの聴講も可能	C 1,000円 ※	D 5,000円 ※	E 5,000円

※C+Dで定員300名、C、Dのみ6月30日、7月1日のお弁当支給あり

【発表資格】

演者・共同演者は本学会の会員に限ります。共同演者で未加入の方は至急下記までご連絡の上、入会手続きを行ってください。なお、学術総会会場での日本乳癌学会事務局デスクの開設はございません。

■新入会・年会費

一般社団法人 日本乳癌学会

〒103-0027 東京都中央区日本橋3-8-16 ぶよおビル3F

E-mail:office@jbcs.gr.jp URL:https://www.jbcs.gr.jp/

【ネームカード発券日時・会場】

学会前日 社員(評議員のみ)	6月28日(水)	13:00~17:30	パシフィコ横浜 ノース 1F ホワイエ
学術総会期間中	6月29日(木)	7:30~18:00	
	6月30日(金)	7:15~18:00	
	7月1日(土)	7:15~13:30	

【日本外科学会へのID番号登録について】

日本外科学会会員は、日本外科学会ホームページ(<https://www.jssoc.or.jp/>)より今回の第31回日本乳癌学会学術総会の参加記録を登録しておくことができます。

ID番号を登録することにより、今回学術総会に参加したことの証明に使用できますので、大切に保管してください。

※[日本外科学会ホームページTOP]→[学術集会]→[学術集会等参加登録]→[参加ID番号登録]→ID番号を入力してください。

※同一のID番号を複数回入力することはできません。

※日本外科学会への登録IDは、参加登録マイページまたは現地会場で発行した「ネームカード」にて確認いただくことが可能です。

3. プログラム・抄録集

プログラム抄録集の発行はございません。

抄録の閲覧は、オンライン抄録もしくは、プログラムアプリをご利用ください。

4. オンライン抄録サービス「MICEnavi」

参加者サービスのひとつとして演題検索やスケジュール登録ができるオンライン抄録サービスをご利用いただけます。聴講したいセッションや演題を検索し、自分のスケジュールとして登録することで、学会期間中のオリジナル予定表が作成できます。Web版、アプリ版のそれぞれでご登録いただいたスケジュール内容は相互に同期することが可能です。

抄録閲覧時、パスワードの入力が求められますので下記を入力してください。

パスワード :31jbcs

・Web版

大会ホームページ(<https://www.congre.co.jp/jbcs2023/>)よりご利用いただけます。

・アプリ版

MICEnaviアプリから、大会のプログラム情報を検索・閲覧できます。

<利用開始方法>

①Apple App Store、Google Play Storeから「MICEnavi」を検索し、ダウンロード、インストールしてください。

②MICEnavi内で「第31回日本乳癌学会学術総会」「jbcs2023」など検索し、プログラム情報をダウンロードしてください。

- iOSの場合
13.0以降、iPhone、iPadに対応
- Androidの場合
6.0以上スマートフォン、タブレットに対応

5. クローク

クロークは以下の日程・会場にて開設いたします。

場 所：パシフィコ横浜ノース 1F G1-G6内

開設時間：6月29日(木)7:30～18:00

6月30日(金)7:15～18:00

7月 1日(土)7:15～16:00

※貴重品、かさ、PC、壊れ物等のお預かりはできません。各自で保管してください。

6. 共催セミナーのご案内

【ランチョンセミナー】

- ・ランチョンセミナーは一部ライブ配信を行います。対象は学術総会ホームページにてご確認ください。
- ・ランチョンセミナーに現地でご参加いただく場合には、お弁当をご用意いたします。
※数に限りがありますのでご注意ください。
- ・ランチョンセミナーは整理券制となります。配布場所、配布時間は以下のとおりです。

配布場所：パシフィコ横浜ノース 1F ホワイエ

配布時間：6月29日(木)7:30～11:00

6月30日(金)7:15～11:00

7月 1日(土)7:15～11:00

- ・整理券はセミナー開始と同時に無効となります。

【モーニングセミナー・イブニングセミナー】

- ・モーニングセミナー、イブニングセミナーは一部ライブ配信を行います。対象は学術総会ホームページにてご確認ください。
- ・モーニングセミナー、イブニングセミナーは整理券の発行はございません。直接会場にお越しください。
- ・モーニングセミナーでは朝食をご用意いたします。
※数に限りがありますのでご注意ください。
- ・イブニングセミナーではスイーツをご用意いたします。
※数に限りがありますのでご注意ください。

7. Wi-Fi環境

パシフィコ横浜ノースでは無料Wi-Fiをご利用いただけます。

SSID:FREE-PACIFICO-NORTH

※パスワードはございません。

8. 託児室

学術総会会期中、パシフィコ横浜ノースに託児室を設置いたします。無料でご利用いただけます。

事前予約制のため、定員になり次第締め切りますのでご了承ください。

詳細については、学術総会ホームページをご確認ください。

9. 各種注意事項

- ・講演時のスライドの写真撮影・ビデオ撮影は固くお断りいたします。
- ・ライブ配信動画、オンデマンド配信動画、発表スライド等の録画・録音・撮影・印刷や画面をスクリーンショット等でキャプチャーする行為は一切禁止いたします。また、無断転用・複製も一切禁止します。
- ・会場内では携帯電話などの電源はお切りいただくか、マナーモードに切り替えてご使用ください。
- ・本学術総会での取材に際しては事前登録が必要です。学術総会ホームページよりご登録ください。
- ・会場内は禁煙です。
- ・ご講演中も貴重品は常に携帯し、盗難には十分ご注意ください。

座長・演者へのお知らせ

発表時間（口演・ポスター）について

発表・質疑応答時間は次表のとおりです。時間を厳守してください。

セッション名	発表時間	質疑応答
主題セッション	個別に連絡	個別に連絡
厳選口演	8分	4分
ポスター	3分	3分

■口演

座長・演者は現地にて発表・討論を行います。

1. 座長の皆様へ

- ①座長受付は行いません。担当セッション開始予定時刻の20分前までに、会場内右手前方の「次座長席」にご着席ください。
- ②進行は座長に一任いたしますが、時間厳守にご協力をお願いいたします。

2. 演者の皆様へ

- ①筆頭演者の利益相反の開示につきましては、「筆頭演者の利益相反の開示について」をご確認ください。
- ②総合受付にてネームカード発券後、PC受付へお越しください。
- ③発表データの受付、パソコン持込みの場合の出力チェック・確認はPC受付にて行います。必ず発表の30分前までに受付をお済ませください。
受付場所は以下の通りです。

場所	受付時間		
	6月29日(木)	6月30日(金)	7月1日(土)
パシフィコ横浜 ノース 1F G7前ホワイエ/ 2F メインエントランス ホワイエ	8:00~18:00	7:20~18:00	7:20~13:30

※会期初日の午前中は大変混雑いたします。基本的には先着順にて対応いたしますが、やむを得ず早い発表時間の方を優先させていただく場合がありますので、予めご了承ください。

- ④ご発表の20分前までに、会場左手前方の「次演者席」にご着席ください。
- ⑤質疑応答、討論につきましては座長の指示に従ってください。
- ⑥発表は、PCプレゼンテーションのみです。PC受付にて登録いただいたパワーポイントスライドを投影いたします。演台上に設置されているマウスとキーボードを操作してください。
- ⑦会場には16:9のスクリーンを準備しております。
- ⑧発表データは、PC本体をご持参されるか、メディアでご持参ください。Windowsの場合、全ての形式においてデータ持込みが可能です。Macintoshの場合は、Power Pointであればデータの持込みが可能です。その他形式(キーノートなど)の場合、ご自身のPC本体を必ず持参してください。
- ⑨発表後、発表データは事務局で責任をもって消去いたします。

■ポスター

ポスター発表は現地発表のみです。

1. ポスター座長の皆様へ

- ①座長は、セッション開始15分前までにポスター会場内のポスター座長受付にお越しください。座長用のリボンお渡しいたします。
- ②担当セッション開始10分前までにポスター前にて待機してください。
- ③各セッションの進行は座長に一任いたしますが、終了時間は厳守してください。
1演題あたり、発表時間3分、質疑応答3分です。
- ④担当セッションが終了しましたら、座長用のリボンをポスター座長受付にご返却ください。

2. ポスター演者の皆様へ

- ①ポスター発表の演者は、セッション日の指定時間までに各自で指定の場所に貼付してください。
- ②発表時間は、発表3分、討論3分です。
- ③紙ポスターでの発表となりますので、会期当日のデータ登録は不要です。
セッション開始予定時刻の10分前までに発表スペース前にお越しください。
開始予定時刻となりましたら座長の指示に従って発表を開始してください。

ポスター貼付スケジュール

日程	貼付	展示	発表・質疑応答	撤去
6月29日(木)	8:00~9:00	9:00~16:20	16:20~17:20	17:20~18:30
6月30日(金)	8:00~9:00	9:00~17:00	17:00~18:00	18:00~19:00
7月1日(土)	8:00~8:30	8:30~10:45	10:45~11:45	11:45~12:45

※時間を過ぎても取り外されないポスターは、事務局にて処分いたします。

※所定日にポスターが貼り出されていなかった場合、「演題取り下げ」となります。

※掲示用のピンは事務局でご用意いたします。セロハンテープ、接着剤は使用できませんのでご注意ください。

■利益相反の開示

本学術総会では利益相反の開示が必須です。

筆頭演者の利益相反の開示につきましては16ページをご確認ください。

筆頭演者の利益相反の開示について

筆頭演者自身の過去3年間における、発表内容に関連する企業や営利を目的とする団体に関わる利益相反 (Conflict of Interest: COI) の有無を発表時に必ず開示ください。(共同演者のものは開示不要)

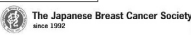
発表時のスライドないしポスターに記載が必要となります。利益相反【なし】の場合も必ず【なし】として記載してください。利益相反の指針および発表時の開示形式については、日本乳癌学会ホームページをご参照ください。

https://www.jbcs.gr.jp/modules/about/index.php?content_id=14

(5. 学会(総会・地方会)における発表時の利益相反状態の開示フォーマット)

開示用FORMAT

3ページ:開示用 FORMAT



筆頭演者の利益相反状態の開示

	該当の状況	企業名等
(1) 役員・顧問職	あり・なし	
(2) 株	あり・なし	
(3) 特許使用料	あり・なし	
(4) 講演料など	あり・なし	
(5) 原稿料など	あり・なし	
(6) 研究費	あり・なし	
(7) 寄附金	あり・なし	
(8) 訴訟等の顧問料など	あり・なし	
(9) 研究員の受け入れ	あり・なし	
(10) 寄付講座	あり 職名: (専任・兼任)	寄付講座名:
(11) その他報酬	あり・なし	

1項目でも該当する場合

【口演】の場合

4ページ:例題(1項目でも該当する場合)




筆頭演者の利益相反状態の開示

	該当の状況	企業名等
(1) 役員・顧問職	あり	Xベンチャー企業
(2) 株	あり	A製薬、Yベンチャー企業
(3) 特許使用料	なし	
(4) 講演料など	あり	A製薬、B医療機器メーカー
(5) 原稿料など	あり	C製薬
(6) 研究費	あり	D製薬、E医療機器メーカー
(7) 寄附金	なし	
(8) 訴訟等の顧問料など	あり	Xベンチャー企業
(9) 研究員の受け入れ	あり	D製薬、G企業
(10) 寄付講座	あり 職名:講師 (専任)	H製薬〇〇講座
(11) その他報酬	あり	I化粧品会社、J生命保険会社、K出版社

すべての項目に該当しない場合

4ページ:例題(すべての項目に該当しない場合)



筆頭演者の利益相反状態の開示

すべての項目に該当なし

【ポスター】の場合

5ページ:開示用 ポスター(1項目でも該当する場合)

POSTER DISCUSSION or POSTER

筆頭演者の利益相反状態の開示

	該当の状況	企業名等
(1) 役員・顧問職	あり	Xベンチャー企業
(2) 株	あり	A製薬、Yベンチャー企業
(3) 特許使用料	なし	
(4) 講演料など	あり	A製薬、B医療機器メーカー
(5) 原稿料など	あり	C製薬
(6) 研究費	あり	D製薬、E医療機器メーカー
(7) 寄附金	なし	
(8) 訴訟等の顧問料など	あり	Xベンチャー企業
(9) 研究員の受け入れ	あり	D製薬、G企業
(10) 寄付講座	あり 職名:講師 (専任)	H製薬〇〇講座
(11) その他報酬	あり	I化粧品会社、J生命保険会社、K出版社

5ページ:開示用 ポスター(すべての項目に該当しない場合)

POSTER DISCUSSION or POSTER

筆頭演者の利益相反状態の開示

すべての項目に該当なし

教育セミナーのお知らせ

- ・事前登録制ではありません。現地開催およびオンデマンド配信となります。※ライブ配信はありません。
- ・現地参加の場合：入退室時に、ネームカードに記載のQRコードをカードリーダーにかざしてください。
カードリーダーはセッション会場前に設置しています。会期終了後、参加登録メールアドレス宛に「受講証」をお送りいたします。
- ・WEB参加の場合：オンデマンド配信終了後、視聴ログを確認し、参加登録のメールアドレス宛に「受講証」をお送りいたします。
- ・1セミナー受講で1単位、2セミナー受講で2単位とします。

教育セミナー1（診断編）

バイオマーカー判定について

日 時：6月29日(木)9:40～10:40

会 場：第7会場(パシフィコ横浜ノース 4F G403+G404)

司 会：遠山 竜也(名古屋市立大学大学院 医学研究科 乳腺外科学分野)

講 師：坂谷 貴司(日本医科大学付属病院 病理診断科)

教育セミナー2（治療編）

HER2陰性乳癌に対する周術期薬物療法

日 時：6月29日(木)10:40～11:40

会 場：第7会場(パシフィコ横浜ノース 4F G403+G404)

司 会：石黒 洋(埼玉医科大学国際医療センター)

講 師：高田 正泰(京都大学 大学院 医学研究科 乳腺外科学)

看護セミナーのお知らせ

- ・第31回日本乳癌学会学術総会にご参加の方のみ、本セミナーに参加できます。看護セミナーのみの参加受付はございません。
- ・事前登録制ではございません。
- ・WEB学会システム内の看護セミナーのページより、資料をダウンロードいただけます。受講前に必ずご自身でダウンロードしてください。

テーマ：周術期の薬物療法Update –周術期薬物療法を受ける患者へのケア–

日時：6月30日(金)9:10～11:10

会場：第7会場(パシフィコ横浜ノース 4F G403+G404)

座長：中野妃佐恵(福井県立病院 看護部)

鶴田 和裕(松戸市立総合医療センター 薬局)

内容：

乳がん周術期薬物療法は、この数年の間に新たな治療薬が承認され、その選択は多様化しています。CDK4/6阻害薬はホルモン剤と併用して用いられます。また、トリプルネガティブ乳がんに対して免疫チェックポイント阻害薬が、乳がん卵巣がん症候群と診断された患者にPARP阻害薬がそれぞれ承認されました。

本セミナーでは乳腺科医師から、最新の周術期薬物療法について、がん専門薬剤師の立場からは薬物療法を受ける患者への関わりについて、がん化学療法看護認定看護師からは免疫チェックポイント阻害薬治療を受ける患者へのケアについて、臨床での実践内容を取り入れながら解説します。

【プログラム】

講演1：周術期の薬物治療の円滑な導入に際して知っておくべき10のこと

演者：寺中亮太郎(国保直営総合病院 君津中央病院 外科)

講演2：乳癌患者の周術期薬物療法における薬剤師のリーダーシップと多職種連携

演者：飯原 大稔(国立大学法人 東海国立大学機構 岐阜大学医学部附属病院)

講演3：周術期に免疫チェックポイント阻害薬療法を受ける患者の投与管理

演者：吉田 ミナ(国立病院機構 九州がんセンター)

病理セミナーのお知らせ

病理セミナーは、日常診療でしばしば遭遇する病変の病理診断に関して、知識を整理し、適切に理解することを目的に企画しています。専門医試験で問われる病理学的な基礎知識の習得を目指した内容です。

ご参加の先生方は、まず、病理診断クイズにご解答ください。学術総会では、このクイズの正解をお示しし、更にレクチャーを行います。もちろん、学術総会のレクチャーを受講するだけでも、明日からの先生方の診療に役立ちます。ぜひ、ご参加ください。

<教育セミナー受講証（病理）の発行について>

受講証は、日本乳癌学会教育・研修委員会が発行するもので、認定医・専門医の資格更新および名誉専門医の申請の際、修練実績点数(1点)として利用できます。受講証を取得するためには、病理診断クイズに解答し、レクチャーを聴講する必要があります。現地または、WEBにてバーチャルスライドを閲覧し、WEB上で病理診断クイズに解答してください。加えて、レクチャーの聴講をお願いいたします。レクチャーは、現地もしくは、WEBにて聴講が可能です。

※セミナーに関する詳細は、学術総会ホームページをご確認ください。

<病理診断クイズ>

病理組織標本は全てバーチャルスライドを用いて観察します。バーチャルスライドは、WEB上にて事前に閲覧可能です。第31回日本乳癌学会学術総会または日本乳癌学会のホームページよりアクセスしてください。学術総会会期中は、会場に設置されたPCからもバーチャルスライドを閲覧できます。

バーチャルスライドのUser nameはjbcs2023、パスワードは31jbcsです。病理組織標本を観察されたら、病理診断クイズにご解答ください。

[バーチャルスライドコーナー] パシフィコ横浜ノース 2F G212

[日 時] 6月29日(木)9:00~17:00

6月30日(金)9:00~17:00

7月 1日(土)8:00~10:00

*バーチャルスライド作成については、浜松ホトニクス株式会社にご協力いただきました。

<解答方法およびバーチャルスライド閲覧終了証〔教育セミナー受講証（病理）引換券〕の受領方法>

1. 現地またはWEBにてバーチャルスライドを閲覧し、WEB上で病理診断クイズに解答してください。
2. 現地またはWEBにてレクチャーを聴講してください。
3. 会期終了後、解答ログと聴講ログの照合を行い、参加登録のメールアドレスに「バーチャルスライド閲覧終了証」PDFデータをお送りいたします。

<レクチャー>

テ ー マ : 適切な治療のための病理標本の取扱い方

日 時 : 7月1日(土)10:30~11:50

会 場 : 第7会場(パシフィコ横浜ノース 4F G403+G404)

座 長 : 大森 昌子(一般財団法人 倉敷成人病センター)

森 清(独立行政法人国立病院機構 大阪医療センター)

講 師 : 有馬 信之(くまもと乳腺・胃腸外科病院)

症例解説 : 鹿股 直樹(聖路加国際病院 病理診断科)

画像診断セミナーのお知らせ

教育セミナー受講証(画像診断)の発行について

- ・受講証は、日本乳癌学会教育・研修委員会が発行するもので、認定医・専門医の資格更新および名誉専門医の申請の際、修練実績点数(1点)として利用できます。
- ・症例の読影を行い、解説を聴講した方に修練点数1点が発行されます。読影、解説は現地、WEBのいずれの組み合わせも可能ですが、読影→解説の順に行ってください。マンモグラフィ・超音波で1点、MRIで1点です。

画像診断セミナー① マンモグラフィ・超音波

<マンモグラフィ・超音波症例揭示コーナー>

読影日時：6月29日(木)9:00～17:00
6月30日(金)9:00～17:00

会場：パシフィコ横浜ノース 2F G214

※チケット制となります。チケットは会期中にマンモグラフィ・超音波コーナー前で配布いたします。

※各回45分となります。開催枠はホームページの「教育セミナー・看護セミナー・病理セミナー・画像診断セミナー」をご確認ください。

<解説>

日時：7月1日(土)8:05～9:05

会場：第7会場(パシフィコ横浜ノース 4F G403+G404)

司会：白岩 美咲(独立行政法人 国立病院機構姫路医療センター 放射線診断科)

MG症例解説：俵矢 香苗(国家公務員共済組合連合会 横浜栄共済病院 乳腺外科)

US症例解説：広利 浩一(兵庫県立がんセンター 乳腺外科)

磯部 祥子(社会医療法人神鋼記念会 神鋼記念病院 生理検査室)

技術支援：篠原 範充(岐阜医療科学大学 保健科学部 放射線技術学科)

主催：日本乳癌学会 教育・研修委員会

共催：日本乳がん検診精度管理中央機構 教育・研修委員会

画像診断セミナー② MRI

<MRI症例揭示コーナー>

読影日時：6月29日(木)9:00～17:00
6月30日(金)9:00～17:00

会場：パシフィコ横浜ノース 2F G213

<解説>

日時：7月1日(土)9:15～10:15

会場：第7会場(パシフィコ横浜ノース 4F G403+G404)

症例解説+ミニレクチャー：後藤眞理子(京都府立医科大学大学院医学研究科 放射線診断治療学)

山口 健(佐賀大学医学部 放射線科)

技術支援：篠原 範充(岐阜医療科学大学 保健科学部 放射線技術学科)

主催：日本乳癌学会 教育・研修委員会

受講証発行の手順

1. 現地、またはWEBにて画像を読影し、設問回答を送信してください。
※上記の回答をもって「読影完了の記録」となります。
2. 現地、またはWEBにて解説を聴講してください。
3. 読影・解説のどちらも受講が確認できましたら、参加登録のメールアドレスに「受講証」をお送りいたします。

[開催方式]

マンモグラフィ・超音波/MRI

	現地	WEB
読影	閲覧可能	閲覧可能
解説	聴講可能	聴講可能

※受講証は、オンデマンド配信終了後に、メールにてお送りいたします。

※セミナーに関する詳細は、学術総会ホームページをご確認ください。

BC-PAP (Breast Cancer Patients and Advocates Program) セッションのお知らせ

日本乳癌学会学術総会 患者・市民参画プログラム、通称「BC-PAP (ビーシー・パップ :Breast Cancer Patients and Advocates Program)」は、乳がん体験者やご家族など一般の方々を対象に、乳がんに関する最新の情報を提供し、さらに患者・家族・市民と医療者が乳がん診療の課題について議論しつつ交流を図る場となるよう企画しました。なかでもBC-PAPセッションは、ご自身の学びはもちろんのこと、ほかの患者さんへの支援活動に役立てること、より良い乳がん医療の実現につなげていくことを目的としたプログラムです。

本プログラムの実施が、一人でも多くの乳がん患者さん、ご家族の学びや、日ごろの患者支援活動への一助となることを願っています。

主 催：第31回日本乳癌学会学術総会

日 時：6月30日(金)、7月1日(土) (学術総会 第2日目、3日目)

会 場：6月30日(金) 第8会場(パシフィコ横浜ノース4F G401+G402)

第9会場(中継会場、4F G414+G415)

7月1日(土) 第10会場(パシフィコ横浜ノース4F G418+G419)

参加にはオンライン参加登録が必要です。

参加コースによって、学術総会のBC-PAPセッション以外の医療者向けプログラムについても聴講可能です(企業共済セミナーなど一部聴講不可なものがあります)。

いずれのセッションも、学術総会終了後(7月上旬～8月末ごろを予定)、オンデマンド配信されます。ただし一部編集を加えての配信になります。また、諸事情により登壇者およびスケジュールを予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。

【6月30日(金)】 第8会場(G401+G402)、第9会場(中継会場、G414+G415)

1) 乳がん治療の手術/放射線 8:30～9:30 (60分)

乳がんの三大治療から、手術療法と放射線療法について、基本から最新の情報までを、それぞれの専門医により分かりやすく解説していただきます。

座 長：海瀬 博史(東京医科大学茨城医療センター 乳腺科)

岩澤 玉青(リンパ浮腫ネットワークジャパン(リンネット) / 聖マリアンナ医科大学病院 乳がん体験者の会「マリアリボン」)

講 師：小島 康幸(聖マリアンナ医科大学 乳腺・内分泌外科)

山内智香子(滋賀県立総合病院 放射線治療科)

2) 乳がんホットトピック・周術期の薬物治療最前線 9:40～11:10 (90分)

乳がんの手術前、手術後に行われる薬物療法を、医療者とともにどう決めていくのか。その最前線について、ステージ(病期)やサブタイプ別に分かりやすく解説していただきます。

座 長：柏葉 匡寛(医療法人財団 足立乳腺クリニック)

寺田真由美(一般社団法人 日本癌医療翻訳アソシエイツ)

講 師：下村 昭彦(国立国際医療研究センター病院)

3) 乳がんホットトピック・転移再発後の薬物治療最前線 13:50～15:20 (90分)

次々に新薬が登場し複雑化している乳がん薬物療法。なかでも転移再発治療の最前線について、分かりやすく解説していただきます。

座 長：谷野 裕一(和歌山県立医科大学 外科学第一講座)

野田真由美(NPO法人 支えあう会「a」)

講 師：尾崎由記範(がん研究会有明病院 乳腺センター)

齋藤亜由美(国立がん研究センター中央病院 腫瘍内科)

4) 海外招聘特別講演・意思決定支援 15:30~16:00 (30分)

複雑化している乳がん治療のなかで、患者と医療者はどうやって意思決定をしていけばよいのでしょうか？ とくに進行乳がんでは、患者さんの意向も考えながら意思決定をしていくことが大切です。国際的な進行乳がんガイドラインづくりに尽力されているカルドソ先生をお招きし、進行乳がんをメインに「意思決定支援」の考え方についてお話をいただきます。

座長兼逐次訳：桜井なおみ(一般社団法人 CSRプロジェクト)

寺田真由美(一般社団法人 日本癌医療翻訳アソシエイツ)

講師：Fatima Cardoso (Breast Unit, Champalimaud Clinical Center, Lisbon, Portugal)

5) 2023年版患者向けガイドラインの解説 16:10~17:40 (90分)

今年1月に発刊された、「患者さんのための乳がん診療ガイドライン2023年版」。2006年から医学の進歩とともに改編を重ね、今回より使いやすくバージョンアップしました。前回の2019版からどの点が改編されたのか。皆さんにとってより有益な使い方とは。ガイドライン作成委員であるお二人の医師より解説していただきます。

座長：千島 隆司(昭和大学医学部外科学講座 乳腺外科学部門/昭和大学横浜市北部病院 乳腺外科)

山崎多賀子(NPO法人 キャンサーリボンズ)

講師：徳永えり子(国立病院機構九州がんセンター 乳腺科)

坂東 裕子(筑波大学医学医療系 乳腺甲状腺内分泌外科学)

【7月1日(土)】 第10会場(G418+G419)

6) 乳がんトークセッション「臨床研究と意志決定」 12:00~13:45 (105分)

私たちが受ける治療は、どのような経過をたどって確立されたものなのか。そのために欠かせない臨床試験とは。近年重要視される、臨床研究に患者の声を取り入れる「PPI」とは。直近に行われた術後薬物療法に関する臨床研究を例に解説していただき、みんなでディスカッションします。

第1部

座長：千島 隆司(昭和大学医学部外科学講座 乳腺外科学部門/昭和大学横浜市北部病院 乳腺外科)

1. 「臨床試験について」

講師：柏葉 匡寛(医療法人財団 足立乳腺クリニック)

臨床試験の成り立ち、流れ、標準治療の構築などについて、基本的なことから患者になりたての人にも分かりやすく解説していただきます。

2. 「臨床研究におけるPPI」

講師：桜井なおみ(カンサーソリューションズ株式会社/一般社団法人CSRプロジェクト)

昨今、盛んに言われるようになったPPI。患者の声を取り入れた臨床研究とは？ 実例を交えながら解説していただきます。

3. 「早期乳がん患者さんへのホルモン治療に関する最新の臨床研究」

講師：枝園 忠彦(岡山大学病院 乳腺内分泌外科)

早期乳がん患者さんへのホルモン治療に関する最新の臨床研究をご紹介いただき、それを題材に、患者にとっての臨床研究の意味合いや、研究結果にもとづく治療現場での意思決定などについてお話していただきます。

共催：ファイザー株式会社

第2部

座長：柏葉 匡寛(医療法人財団 足立乳腺クリニック)

寺田真由美(一般社団法人 日本癌医療翻訳アソシエイツ)

・パネルディスカッション

パネラー：千島 隆司(昭和大学医学部外科学講座 乳腺外科学部門/昭和大学横浜市北部病院 乳腺外科)

桜井なおみ(一般社団法人CSRプロジェクト)

枝園 忠彦(岡山大学病院 乳腺内分泌外科)

岩澤 玉青(リンパ浮腫ネットワークジャパン(リンネット) / 聖マリアンナ医科大学病院 乳がん体験者の会「マリアリボン」)

野田真由美(NPO法人 支えあう会「a」)

山崎多賀子(NPO法人 キャンサーリボンズ)

がん研究会有明病院 乳腺センター／超音波検査室企画のお知らせ

テーマ：明日から役立つエコーのコツ

本企画は、第24回日本乳癌学会学術総会にて1回目を実施し、多くの方よりご好評いただきました。本学術総会でもがん研特別企画として、企画展示会場内で実施いたします。是非、お立ちよりください。

主催：がん研究会有明病院 乳腺センター／超音波検査室

日時：6月29日(木)～7月1日(土)9:00～17:00

※7月1日(土)のみ12:00まで

会場：企業展示会場内(パシフィコ横浜ノース 1F G1-G6)

◆明日から役立つリンパ節検査：リンパ節US実践コーナー（事前申込制）

乳房領域リンパ節の中で、腋窩レベルⅠ、腋窩レベルⅡ・Ⅲ、内胸リンパ節、鎖骨上リンパ節の観察方法についてハンズオンで体験していただくコーナーです。経験豊富な技師による当院の検査法を伝授します。明日からの超音波検査にぜひお役立てください。

※事前申込制となりますため、学術総会ホームページでお申し込みいただいた方限定となります。

◆明日から役立つ2nd look US：動画展示コーナー

2nd Look US は MRI、マンモグラフィ、CT、PET/CT など様々なモダリティで指摘された病変に対して行われています。各モダリティで指摘された病変について2nd Look US を行い、診断に至った症例画像を展示します。

◆明日から役立つインプラント検査：インプラント再建乳房のUSコーナー

最新の超音波装置を使用してインプラント破損サンプルを観察していただけます。シリコーンプレストインプラント(SBI)は挿入後徐々に内部が劣化し、挿入年数が長くなるにつれて破損率も上昇します。SBIの劣化や破損が超音波検査でどのように見えるか動画をご覧ください。

若手ブースのお知らせ

乳がん診療に関わる若手医師(40歳以下が対象)、乳腺科医になろうと考えている初期研修医や医学生の皆さんのリアルな悩みを同じ年代のみんなで共有しつつ、5~10年後の自分の将来について一緒に考えていくスペースです。学会期間中3回開催予定のMeet the Expert Petite以外にも乳癌学会で主に40歳以下の医師達で新たに設立されたTeam MIRAY1のメンバーも随時待機しておりますので、無印良品さん提供のお菓子や飲み物でホッと息抜きしつつ気軽におしゃべりしましょう。

主催：第31回日本乳癌学会学術総会

会場：企業展示会場内(パシフィコ横浜ノース 1F G1-G6)

1) Meet the Expert Petite

30-40代の留学経験のある先生、臨床試験等で活躍している先生、地方都市で活躍している先生 etc.の“ちょっと未来”の自分の将来像を考えるヒントになる話や現在の悩みを共有出来るMeet the Expert Petiteを開催します。

日時：6月29日(木)15:30-16:30, 16:30-17:30

6月30日(金)17:00-18:00

※計3回実施

※若手ブース内で実施いたします。

第32回日本乳癌学会学術総会のお知らせ

テーマ：社会への還元を目指した叡智の結集 ～Shaping the world ahead～

会 期：2024年7月11日(木)～13日(土)

会 場：仙台国際センター
〒980-0856
宮城県仙台市青葉区青葉山無番地

会 長：石田 孝宣(東北大学大学院 乳腺・内分泌外科)

事務局：第32回日本乳癌学会学術総会 運営事務局
日本コンベンションサービス株式会社
〒100-0013 東京都千代田区霞が関1-4-2 大同生命霞が関ビル14階
TEL:03-3508-1214
E-mail:32jbc-admin@convention.co.jp

日本人演者のご紹介



中村 祐輔

国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所

◆特別講演

6月30日(金) 10:10~11:10 第1会場 パシフィコ横浜ノース 1F G7

がん死をなくす国を目指して

- 1977年 大阪大学医学部卒業
- 1987年 ユタ大学院類遺伝学教室助教授
- 1989年 (財)癌研究会癌研究所生化学部長
- 1994年 東京大学医科学研究所教授
- 1995年 東京大学医科学研究所・ヒトゲノム解析センター長
- 2005年 理化学研究所ゲノム医科学研究センター長(併任)
- 2011年 内閣官房参与・内閣官房医療イノベーション推進室長
- 2012年 シカゴ大学医学部教授
- 2018年 内閣府「人工知能ホスピタル」プログラムディレクター
- 2018年 公益財団法人がん研究会プレジジョン医療研究センター所長
- 2022年 国立研究推進法人医薬基盤・健康・栄養研究所理事長

海外登壇者のご紹介



Fatima Cardoso

Breast Unit, Champalimaud Clinical Centre, Lisbon, Portugal

Dr Cardoso is the Director of the Breast Unit of the Champalimaud Clinical Center (CCC) in Lisbon, Portugal. She is board certified in medical oncology and internal medicine.

Dr Cardoso earned her medical degree at the University of Porto in Portugal and completed fellowships in the Translational Research Unit of the Jules Bordet Institute (IJB) in Brussels, Belgium, and the Department of Molecular and Cellular Oncology at MD Anderson Cancer Center in Houston, Texas. She then worked for 10 years as Assistant Professor at the Medical Oncology Clinic of the IJB and served as the scientific director of the international research network TRANSBIG for 7 years (EU Framework VI). She returned to Portugal in October 2010 to create the Breast Unit of the CCC, leading it to become the 1st certified Breast Unit in Portugal.

Her research interests include biology of breast cancer, prognostic and predictive markers, and new anticancer agents, and is involved in many phase I-IV breast cancer clinical trials. Dr Cardoso is also deeply involved in the field of global cancer policy, accessibility and inequalities, and is the founder and President of the Advanced Breast Cancer (ABC) Global Alliance, as well as the founder and chair of the ABC International Consensus Guidelines Conference.

She is also active in numerous professional organizations such as ESO, ESMO, ASCO, AACR, EORTC and E.C.O., where she serves on several committees; she was a member of the Board of Directors of ESMO, ECCO and EORTC.

She is editor-in-chief of The Breast Journal, associate editor of the European Journal of Cancer, and an editorial board member of several

other journals.

She has received several educational and research grants from the Breast Cancer Research Foundation, the European Society of Medical Oncology, the European Cancer Organization, the Portuguese Science and Technology Foundation, the Portuguese League Against Cancer, the Portuguese Ministry of Health, the Free University of Brussels, the "Fonds Jean-Claude Heuson", the Fondation Lambeau-Marteau, the Belgian Federation Against Cancer, the Susan G. Komen Foundation, and the European Union.

She was awarded the prestigious Order of Santiago da Espada for Scientific Merit, from the President of Portugal, on June 10th 2015. She has also received the Flims Alumni Club (FAC) Lifetime Achievement Award 2011; the Prix Nice - St Paul 2017, for the work developed for Advanced Breast Cancer Patients; the Reach to Recovery International Health Professional Award 2019, for exceptional contributions by a health professional in the field of breast cancer support; the ABC Award 2019, in recognition of her foresight in understanding the importance of advanced breast cancer and for launching a Global Alliance against it, the 2020 Jin Xian-zhai Special Achievement Award, for outstanding contributions to prevention and treatment of human cancer, especially breast cancer, the 2020 European Breast Cancer Science Award/Emmanuel van der Schueren Lecture, the 2021 Umberto Veronesi Memorial Award, and the 2022 ESMO Women For Oncology Award.

Dr Cardoso has authored about 350 publications and has presented her work nationally and internationally.



Sung-Bae Kim

Asan Medical Center, University of Ulsan College of Medicine, Korea

He attained MD and Ph D from Kyunghee University Medical School, completed clinical training in internal medicine at Ewha Womans University and undertook a clinical fellowship at Division of Hematology-Oncology at Asan Medical Center. He studied at the Experimental Transplantation and Immunology, National Cancer Institute, USA in 2000 as a postdoctoral fellow. He is a member of steering committees in international clinical trials. His research interests are tumor immunotherapy, molecular imaging, early drug development, and clinical management of head and neck cancer, esophageal cancer, and breast cancer. He has authored several book chapters and written over 450 articles in oncology peer reviewed journals. He has been the principal investigator on a number of clinical trials. He is an author or co-authors of high impact journals. He is currently Head, Breast Cancer Center, Asan Medical Center and has served as scientific co-chair, ESMO Breast 2021-2023.

海外登壇者のご紹介



Jeong Eon Lee

Breast Division, Department of Surgery, Sungkyunkwan University School of Medicine, Samsung Medical Center, Korea

Prof. Jeong Eon Lee is a surgical oncologist and the Chairperson of Breast Division, Department of Surgery, Samsung Medical Center and Sungkyunkwan University School of Medicine.

He had his education and training at Seoul National University from 1990 to 2005, and then he moved to Samsung Medical Center in March 2006. After one and half years as a visiting scholar to the University of Michigan, he came back to Seoul and has been working for Samsung Medical Center.

His academic interests lie on various fields including the oncoplastic surgeries and the selective avoidance of sentinel node biopsy after neoadjuvant chemotherapy. He is also interested in the issues of young Korean breast cancer patients regarding ovarian function preservation and pregnancy. He has published various kinds of research papers focusing on the signal transduction of breast cancer cells and has actively participated in several global and domestic clinical trials throughout his career.

He is a board member of the Korean Breast Cancer Society. He was the chair of Academic Committee of the GBCC from 2017 to 2021, and has been taking the position of the Chair of International Affairs Committee since April 2021. He is also one of the vice editors of the Journal of Breast Cancer.



Hope S. Rugo

**UCSF Helen Diller Family Comprehensive Cancer Center/
University of California San Francisco Medical Center, USA**

Clinical Interests and Expertise: I am a breast medical oncologist and Director of Breast Oncology and Clinical Trials Education at UCSF. I have extensive experience in clinical trial design and conduct of investigator initiated, consortia, and sponsored trials. I am the co-chair of the triple negative working group for the Translational Breast Cancer Research Consortium (TBCRC), facilitating and participating in multi-center clinical translational research trials. I am a member of the Breast Committee for the Alliance, and designed and ran a successful cooperative group phase III trial requiring collaboration between three pharmaceutical companies. I have been an investigator with the I-SPY neoadjuvant trials since the inception of the initial project, and actively participated in the design and implementation of I-SPY2. I am the chair of the Safety Committee for I-SPY2, with responsibilities including coordination of safety and toxicity guidelines for each novel agent combination, and real-time monitoring and evaluation of reported toxicities. I also serve on the novel agents committee that includes careful review of potential new agents. In many of these roles, I mentor young investigators in trial design and conduct. I am an active member of ASCO, serve as an editor for the Educational and co-chaired recent guidelines for the hormonal treatment of metastatic breast cancer, and serve on the Advanced Breast Cancer Guidelines Consensus Panel through the European Society of Medical Oncology. At UCSF, I coordinate clinical trials in a variety of settings, supporting and working with our group to set priorities for clinical and translational research within and outside our division, supported in part by a grant from the Breast Cancer Research Foundation (BCRF), and have mentored a number of junior investigators. I work closely with the research advocates at UCSF and within the TBCRC to evaluate and prioritize research proposals, and am committed to collaborative research.

海外登壇者のご紹介



Giuseppe Curigliano

Istituto Europeo di Oncologia, IRCCS and University of Milano, Italy

Giuseppe Curigliano, MD PhD, is Full Professor of Medical Oncology at the University of Milano and of the Clinical Division of Early Drug Development at European Institute of Oncology, Milano, Italy. Dr. Curigliano is an expert in the field of advanced drug development in solid tumors, with specific interest on breast cancer. Its clinical activity is based on the genetic characterization of tumors and on testing new experimental drugs specific for particular groups of patients. He contributed to the development of many anticancer treatments actually available as standard of care in the treatment of multiple solid tumors. Since 2001 he is tenure-track and full-time cancer specialist at European Institute of Oncology – one of the world’s leading cancer-research institutes and the premier Cancer Center in Italy and third in Europe. He serves as member of the Italian Higher Council Health. Dr. Curigliano serves ESMO as Chair of the Clinical Practice Guidelines Committee. He was awarded with the first ESO Umberto Veronesi Award in Vienna in 2017 and with the Fellowship of the European Academy of Cancer Sciences in Paris in 2017. Dr Curigliano in 2022 was identified as Clarivate™ world’s most influential researchers. Dr Curigliano has contributed to over 600 peer-reviewed publications.



Sibylle Loibl

Goethe University Frankfurt, Germany

Prof. Dr. Loibl is an associate professor of obstetrics and gynecology at the Goethe University of Frankfurt. She gained a doctorate at the Ruprecht Karl University of Heidelberg and trained as a consultant in gynaecology and obstetrics at the women’s clinics of the university hospitals in Heidelberg and Frankfurt am Main. She devotes most of her time to clinical research within the German Breast Group and clinical work at the Centre for Haematology and Oncology, Bethanien in Frankfurt.

Prof. Dr. Loibl has gained international renommée for her research in neoadjuvant breast cancer, breast cancer during pregnancy and breast cancer in young women. She established the Translational Research Group within the German Breast Group and has headed numerous research projects. In addition, Prof. Dr. Loibl has been involved in conducting and managing a significant number of national and international, practice changing clinical trials.

Prof. Dr. Loibl is author of more than 450 original and peer review articles and scientific papers; she has written numerous books and book chapters. She is an active member of many important national and international organizations, such as ASCO, ESMO, DKG and the AGO. She is involved in national and international guidelines for breast cancer, amongst them those for ESMO and ASCO. She was the first Co-Chair of the ESMO Breast Conference in Berlin and is an active faculty member of many international (ASCO, ESMO, SABCS) conferences. In 2022 she received the EMSO Breast Cancer Award.

海外登壇者のご紹介



Naoto Ueno

University of Hawai'i Cancer Center, USA

EDUCATION

Degree-Granting Education

Wakayama Medical College, Wakayama, Japan, MD, 1989, Doctor of Medicine

The University of Texas Graduate School of Biomedical Sciences, Houston, TX, PHD, 1999, Cancer Biology

Postgraduate Training

Clinical Internship, Rotating Internship, United States Naval Hospital, Yokosuka, Kanagawa, Japan, 4/1989–3/1990

Clinical Internship, Internal Medicine, Montefiore University Hospital - University of Pittsburgh, Pittsburgh, PA, 7/1990–4/1991

Clinical Residency, Internal Medicine, University of Pittsburgh Medical Center, Pittsburgh, PA, 7/1991–6/1993

Clinical Fellowship, Medical Oncology and Blood and Marrow Transplantation, The University of Texas MD Anderson Cancer Center, Houston, TX, 7/1993–6/1996

Leadership Training, Graduate of LEADing Teams Core Cohort-June 2022, The University of Texas MD Anderson Cancer Center, Houston, TX, 9/2021–6/2022

EXPERIENCE/SERVICE

Academic Appointments

Instructor, Department of Hematology, Division of Medicine, The University of Texas M. D. Anderson Cancer Center, Houston, TX, 07/1996–1998

Assistant Professor, Stem Cell Transplantation & Cellular Therapy, Division of Cancer Medicine, The University of Texas MD Anderson Cancer Center, Houston, TX, 1998–2004

Associate Professor, Department of Molecular and Cellular Oncology, Division of Cancer Medicine, The University of Texas MD Anderson Cancer Center, Houston, TX, 10/1999–5/2006

Associate Professor, Stem Cell Transplantation and Cellular Therapy, Division of Cancer Medicine, The University of Texas MD Anderson Cancer Center, Houston, TX, 2004–2009

Associate Professor, Department of Breast Medical Oncology, Division of Cancer Medicine, The University of Texas MD Anderson Cancer Center, Houston, TX, 2007–2009

Professor, Stem Cell Transplantation & Cellular Therapy, Division of Cancer Medicine, The University of Texas MD Anderson Cancer Center, Houston, TX, 2009–2011

Professor, with Tenure, Department of Breast Medical Oncology, Division of Cancer Medicine, The University of Texas MD Anderson Cancer Center, Houston, TX, 2009–2022

Professor, with Tenure, University of Hawai'i Cancer Center, Honolulu, HI, 12/2022-present

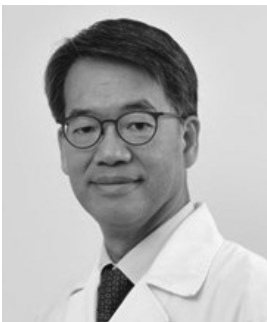
Administrative Appointments/Responsibilities

Director, The University of Texas M. D. Anderson Cancer Center Breast Cancer Translational Research Laboratory, Houston, TX, 2002–2004

Executive Director, The University of Texas MD Anderson Cancer Center Morgan Welch Inflammatory Breast Cancer Research Program and Clinic, Houston, TX, 6/2011–12/2022

Section Chief, Section of Translational Breast Cancer Research, Department of Breast Medical Oncology, Division of Cancer Medicine, The University of Texas MD Anderson Cancer Center, Houston, TX, 6/2011–12/2022

Director, University of Hawai'i Cancer Center, Honolulu, HI, 12/2022-present



Chiun-Sheng Huang

National Taiwan University Hospital, Taiwan

- Leading TBCC, an academic research organization, composed of wide-experienced centers with large patient pool, conducting trials for domestic and international pharmaceutical companies, and research institutions
- Study chair of a nationwide randomized trial of breast cancer screening using ultrasound and mammography for women aged 40–49
- Global study chair of a multi-national randomized trial of cancer vaccine in metastatic breast cancer and another trial of neoadjuvant biosimilar trastuzumab in early breast cancer
- Member of Steering Committees in several global trials investigating anti-Her-2 target therapies (LUX Breast 1, Kristine, Katherine) leading to FDA approval of T-DM1 in early breast cancer, anti-PDL1 antibody (NeoTrip, AptNeo) and CDK4/6 inhibitors (MonarchE, Natalie) for breast cancer.
- Published more than 200 papers in related fields of breast cancer
- Member of the St. Gallen International Breast Cancer Consensus Panel since 2017

海外登壇者のご紹介



Yoon-Sim Yap

Division of Medical Oncology, National Cancer Centre Singapore, Singapore

Dr. Yap is Senior Consultant in the Division of Medical Oncology at the National Cancer Centre Singapore, and Associate Professor at Duke-National University Singapore.

A recipient of the Singapore National Medical Research Council (NMRC) Clinician Scientist Award (CSA), her research focuses primarily on clinical and translational research in breast cancer, including liquid biopsies and predictive biomarkers, development of novel therapeutic strategies, and epidemiologic studies on treatment outcomes in breast cancer. She is the principal investigator of several phase 1 to 3 clinical trials for various compounds, including CDK inhibitors, PI3K and mTOR inhibitors, selective estrogen receptor degraders, HER2-targeting agents and immunotherapy, in addition to investigator-initiated studies.



Jung-Ju Huang

Plastic and Reconstructive Surgery, Chang Gung Memorial Hospital, Taiwan

Dr. Huang is a board-certified plastic surgeon and currently works in Chang Gung Memorial Hospital as an associate professor. She is a well-trained and experienced microsurgeon who majors in microsurgical breast reconstruction, gynecological reconstruction and lymphedema surgeries. Her recent breakthrough is in robotic-assisted breast reconstruction, including implant-based and microsurgical breast reconstructions, and robotic-assisted DIEP flap elevation. She has published 91 peer-reviewed papers and 12 book chapters regarding plastic surgery, microsurgical reconstructive surgeries, and basic research; and she leads several research projects in the field of tissue engineering and lymphedema-related research. Her professional achievement has brought her several awards and the most significant one would be being awarded as one of the TEN OUTSTANDING YOUNG WOMENs in Taiwan of the year 2017. In 2021, she was awarded Fu-Chan Wei Young Microsurgeon Award by Taiwan Society for Reconstructive Microsurgery.

海外登壇者のご紹介



Dong Won Lee

Department of Plastic & Reconstructive Surgery, Institute for Human Tissue Restoration,
Yonsei University College of Medicine, Seoul, Republic of Korea

EDUCATION

- **B.Sc. degree** Mar 1995 - Feb 2001
Yonsei University College of Medicine, Seoul, Korea
- **M.Sc. degree** Sep 2007 - Aug 2010
Department of Plastic & Reconstructive Surgery, Yonsei University College of Medicine, Seoul, Korea
Thesis: The Effect of Platelet Lysate on the Survival of Grafted Fat
Supervisor: Kwan Chul Tark
- **Ph.D. degree** Sep 2010 - Aug 2016
Department of Plastic & Reconstructive Surgery, Yonsei University College of Medicine, Seoul, Korea
Thesis: Gene therapy of radiation fibrosis using adenovirus expressing decoy Wnt receptor (sLRP6E1E2)
Supervisor: Dae Hyun Lew

ACADEMIC APPOINTMENTS

- **Internship** Mar 2001 - Feb 2002
Yonsei University Health System, Severance Hospital, Seoul, Korea
- **Army Doctor** (Rank: First Lieutenant) Feb 2002 - Apr 2005
Republic of Korea Army
- **Residency** May 2005 - Feb 2009
Department of Plastic & Reconstructive Surgery, Yonsei University Health System, Severance Hospital, Seoul, Korea
- **Fellowship** Mar 2009 - Feb 2010
Department of Plastic & Reconstructive Surgery, Yonsei University College of Medicine, Seoul, Korea
- **Clinical Research Assistant Professor** Mar 2010 - Feb 2012
Department of Plastic & Reconstructive Surgery, Yonsei University College of Medicine, Seoul, Korea

- **Clinical Assistant Professor** Mar 2012 - Feb 2014
Department of Plastic & Reconstructive Surgery, Yonsei University College of Medicine, Seoul, Korea
- **Assistant Professor** Mar 2014 - Feb 2019
Department of Plastic & Reconstructive Surgery, Yonsei University College of Medicine, Seoul, Korea
- **Visiting Professor** Aug 2018 - Jul 2019
- Department of Plastic Surgery, MedStar Georgetown University Hospital, Washington, DC, USA
Aug 2018 - Jul 2019 Sponsor: David H. Song, MD, MBA, FACS
- Hansjorg Wyss Department of Plastic Surgery, New York University Langone Health, New York, NY, USA
Apr 2019 Sponsor: Nolan S. Karp, MD, Mihye Choi, MD
- Section of Plastic & Reconstructive Surgery, Department of Surgery, The University of Chicago Medical Center, Chicago, IL, USA
Jun 2019 Sponsor: David W. Chang, MD
- Division of Plastic and Reconstructive Surgery, University of Iowa Hospitals & Clinics, Iowa City, Iowa, USA
Jun 2019 Sponsor: Wei F. Chen, MD
- Plastic and Reconstructive Surgery Service, Department of Surgery, Memorial Sloan Kettering Cancer Center, New York, NY, USA
Jun 2019 - Jul 2019 Sponsor: Peter G. Cordeiro, MD
- **Associate Professor** Mar 2019 - present
Department of Plastic & Reconstructive Surgery, Yonsei University College of Medicine, Seoul, Korea



Andrea A Moreira

Allegheny Health Network, Pittsburgh PA, USA

Dr. Andrea Moreira is a board-certified Plastic Surgeon and the director of the breast reconstruction program at Allegheny Health Network, Pittsburgh, Pennsylvania. She is also an adjunct staff at the Cleveland Clinic and an assistant professor at Case Western Reserve Lerner School of Medicine. She completed general and plastic surgery residencies at UNIFESP, Sao Paulo, Brazil. She relocated to the United States, and she pursued plastic surgery residency at the Cleveland Clinic. Dr. Moreira has accumulated extensive clinical knowledge in the field of breast reconstruction, and she is the author of several peer review papers. Her main areas of research focus on innovations on breast reconstruction and microsurgery, particularly robotic assisted DIEP flap harvest and breast resensation. Her overall vision is to develop state-of-art ways to care for breast reconstruction patients, through clinical knowledge and research.

海外登壇者のご紹介



Dhruv Singhal

Harvard Medical School/Beth Israel Deaconess Medical Center, USA

Dhruv Singhal, MD is an Associate Professor of Surgery at Harvard Medical School and serves as the co-Director of the Boston Lymphatic Center and Director of the BIDMC Lymphatic Center.

Dr. Singhal completed all of his formal surgical training in Boston. He is Board Certified in General Surgery having completed his general surgery training at the Brigham and Women's Hospital (Boston, MA). Dr. Singhal is also Board Certified in Plastic and Reconstructive Surgery having completed further training in plastic surgery in the Harvard Combined Plastic Surgery Program. He then pursued a fellowship in adult craniofacial surgery at the Chang Gung Memorial Hospital (Taipei, Taiwan) and microsurgery at the China Medical University Hospital (Taichung, Taiwan).

Dr. Singhal's clinical focus is cancer reconstruction. Dr. Singhal is a pioneer in immediate lymphatic reconstruction for the prevention of lymphedema in high-risk patients and performs liposuction, lymphovenous bypass, and lymph node transplantation for the treatment of chronic lymphedema. Dr. Singhal also performs the entire gambit of breast reconstruction from oncoplastic procedures to perforator flap operations (e.g. DIEP flaps).

Dr. Singhal's research focus is on lymphatic reconstruction. In 2021, Dr. Singhal was awarded an RO1 from the NIH to further delineate the functional lymphatic anatomy of the upper extremity. In 2022, Dr. Singhal was awarded a U54 grant from the NIH Common Fund to lead a Lymphatic Tissue Mapping Center for the Human Biomolecular Atlas Program.



Mehra Golshan

Yale School of Medicine, USA

Mehra Golshan, MD, MBA, is a cancer surgeon and a nationally and internationally recognized leader in breast cancer treatment and research. In addition to caring for patients, he serves as Deputy Chief Medical Officer for Surgical Services and Director of the Breast Cancer Program for the Yale Cancer Center, Smilow Cancer Hospital, and Smilow Cancer Hospital Care Centers. He also serves as the inaugural Executive Vice Chair for Surgery. He is a Professor Surgery and Professor of Medicine at the Yale School of Medicine.

Dr. Golshan is a leader in breast cancer research with over 150 peer reviewed publications. He has led numerous Phase I, II and III clinical trials and translational science innovations impacting the treatment options and outcomes for women. He is an innovator in tailoring surgery and therapy for women with early stage breast cancer with funding support from the Breast Cancer Research Foundation and National Institutes of Health. He is the principal investigator of several phase II trials aiming to reduce the need for second surgeries or re-excisions in women with breast cancer, one of which uses innovative image-guided operating room capabilities to capture and remove all residual tumor utilizing MRI and mass spectrometry which is used at Yale's hybrid operating room.

Dr. Golshan prides himself on being an educator having trained and mentored over a hundred breast surgical fellows as well as international surgeons. He has lectured and taught surgeons, trainees and students nationally and internationally in the field of oncology and breast cancer treatment.

Dr. Golshan is a Board Member of the National Accreditation Program for Breast Centers (NAPBC), Chair of the NAPBC Accreditation Committee,

Chair of the American College of Surgeons Committee on Interprofessional Education and Practice, and Board Member of the Commission on Cancer.

Dr. Golshan completed his fellowship in breast surgical oncology at Northwestern Memorial Hospital. He earned his Medical Degree from Case Western Reserve University School of Medicine and an MBA at Massachusetts Institute of Technology, Sloan School of Management in Cambridge Massachusetts. He holds a Masters of Arts (privatim) from Yale University.

Prior to joining Yale, he spent 17 years in Boston at Harvard's Brigham and Women's Hospital, Dana Farber Cancer Institute where he was the inaugural and incumbent Dr. Abdul Mohsen and Sultana Al-Tuwajri Distinguished Chair in Surgical Oncology. He also served as the Director of the Breast Surgical Oncology Fellowship at the Dana-Farber Cancer Institute/Brigham and Women's Hospital/Massachusetts General Hospital and was an Associate Professor of Surgery at Harvard Medical School.

Dr. Golshan's approach to breast cancer treatment is through a specialized team approach. For each new patient, Smilow brings together a team of medical oncologists, radiation oncologists, reconstruction surgeons, pathologists, genetics, breast imagers, radiologists, program nurses, and a robust clinical research program. "I work closely with so many colleagues dedicated deeply to treating and curing breast cancer who inspire me to be a better physician, scientist, and person every day".

海外登壇者のご紹介



Wonshik Han

Department of Surgery, Seoul National University College of Medicine, Korea

Short bio.

Dr. Han received his MD and PhD degrees from the Seoul National University (SNU) College of Medicine, Korea. He has started faculty appointment in SNU since 2004. Starting from 2015, he has become a tenured Professor of SNU College of Medicine. He is former Chief of Breast Care Center in Seoul National University Hospital. In Korea, he is a member of board of directors in Korean Breast Cancer Society, The Korean Cancer Association, and Global Breast Cancer Conference (GBCC). He has been devoted to both breast cancer patient care and research. He has published more than 300 original articles in peer reviewed journals. His research interest includes breast cancer genomics, surgical techniques and their oncologic outcomes, and personalized treatment of breast cancer. He is leading various ongoing multicenter trials in South Korea.



Hee Jeong Kim

Asan Medical Center, Seoul, Republic of Korea

Curriculum Vitae

Educational Background

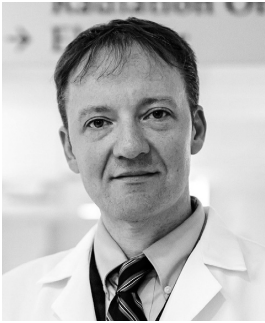
2007-2009 Ph.D. Graduate School, Ulsan University, Seoul, Korea
 2004-2006 M.S. Graduate School, Ulsan University, Seoul, Korea
 1994-2000 Premedical Course, and M.D. College of Medicine Cheon Buk National University, Cheon Ju, Korea

Work Experience

Mar 2022 - present Professor
 College of Medicine, University of Ulsan
 Asan Medical Center, Seoul, Korea
 Mar 2016 - Feb 2022 Associate Professor
 College of Medicine, University of Ulsan

Asan Medical Center, Seoul, Korea.
 Sep 2017 - Feb 2019 Visiting doctor
 Dana Farber Harvard Medical School
 Mar 2010 - Feb 2016 Clinical Assistant Professor
 College of Medicine, University of Ulsan
 Asan Medical Center, Seoul, Korea.
 Sep 2010 Visiting doctor
 Dana Farber Cancer Institute
 Memorial Sloan Kettering Cancer Center
 Mar 2008 - Feb 2010 Clinical Instructor
 Asan Medical Center
 Mar 2005 - Feb 2008 Fellowship
 Asan Medical Center
 Mar 2001 - Feb 2005
 Resident, Department of Surgery
 Asan Medical Center

海外登壇者のご紹介



Steven J. Chmura

Radiation and Medical Oncology, Comprehensive Cancer Center, University of Chicago, Chicago IL, USA

ACADEMIC APPOINTMENTS

2004-2006 Instructor, Department of Radiation and Cellular Oncology, University of Chicago
 2006-2012 Assistant Professor, Department of Radiation and Cellular Oncology, University of Chicago
 2012- Associate Professor, Department of Radiation and Cellular Oncology, University of Chicago
 2020- Professor, Department of Radiation and Cellular Oncology, University of Chicago
 2021- Professor (secondary) Department of Medicine, Section of Hematology/Oncology

Ph.D.-Granting Committee, Program, Institute, and Center Appointments

2004- Member, University of Chicago Comprehensive Cancer Center
 2008- Director of Clinical and Translational Research, Radiation and Cellular Oncology
 2008- Member, Cancer Center Committee Radiation Oncology Representative
 2009-2019 Member, RADRAC (Radioisotopes & Radioactive Drug Research Advisory Committee)
 2009-2010 University of Chicago Breast Cancer Spore Program #5 (co-director)
 2010-2019 Vice Chairman, SAM (Safety and Monitoring) Committee for Clinical Trials, University of Chicago
 2016- Member, Clinical Research Advisory Committee (CRAC)
 2010-2018 Program Director for Radiation Oncology Residency Training (GME)

2019- Committee on Academic Promotion (CAP) for Pritzker School of Medicine
 2019-2021 Scientific Director for the Cancer Clinical Trials Office (CCTO), University of Chicago Comprehensive Cancer Center.
 2022- National Trials Steering Committee co-Leader, University of Chicago Comprehensive Cancer Center.
 2022- Chief Medical Officer of the Comprehensive Cancer Center, University of Chicago
 2022- Co-Leader of the Developmental Therapeutics Program, University of Chicago

ACADEMIC TRAINING

1989-1992 B.S., Biology and Psychology, University of Illinois, Urbana, IL
 1992-1999 M.D., University of Chicago Pritzker School of Medicine, Chicago, IL
 1994-1997 Ph.D., University of Chicago Department of Pathology, Chicago IL
 1999-2000 Internship, Weiss/University of Chicago Program B, Weiss Hospital, Chicago, IL
 2000-2004 Residency, University of Chicago Hospital, University of Chicago School of Medicine, Department of Radiation Oncology, Chicago, IL
 2003 Externship in Adult Clinical Oncology, Royal Marsden Hospital, London, UK
 2003 Externship in high dose rate prostate, gyne, and sarcoma brachytherapy, Memorial Sloan Kettering Hospital, New York, NY



Ming-Feng Hou

Kaohsiung Medical University Hospital/President of Kaohsiung Breast Cancer and Prevention Society, Taiwan

Education	1988-1989	Research fellow, Breast Surgery, Department of Surgical Oncology, Roswell Park Cancer Institute, Buffalo, New York
	1986-present	Attending Physician Kaohsiung Medical University Chung-Ho Memorial Hospital
	1982-1986	Resident Surgery Kaohsiung Medical University Chung-Ho Memorial Hospital
	1981-1982	Resident Surgery Chang-Gung Memorial Hospital
	1979-1981	Internal Medicine Air force (Military Service)
	1979	M.D. Kaohsiung Medical University, Taiwan
Current Position	2022-present	President, Taiwan Surgical Association
	2020-present	Advisor, Kaohsiung Medical University Board of Trustees
	2021-present	Professor, Department of Biomedical Science and Environmental Biology, College of Life Science, Kaohsiung Medical University
	2002-present	Professor, Department of Surgery, Division of Breast Oncology and Surgery, Kaohsiung Medical University Chung-Ho Memorial Hospital
Experience	2018-2020	Superintendent, Kaohsiung Medical University Chung-Ho Memorial Hospital
	2015-2018	Superintendent, Kaohsiung Municipal Hsiao Kang Hospital
	2012-2015	Superintendent, Kaohsiung Municipal Ta-Tung Hospital
	2020-2022	President, Taiwan Society of Ultrasound in Medicine
	2004-2007	President, The Breast Cancer Society of Taiwan
Honors / Awards	2020	Special Contribution Award for Epidemic Prevention
	2018	The 8th Outstanding Breast Cancer Research Award from Taiwan Breast Cancer Foundation
	2017	Publishing on the Journal of Nature [Association analysis identifies 65 new breast cancer risk loci]
	2017	Best Medical Practice Award and "Rose of Paracelsus Award" from European Medical Association (EMA) and European Chamber of Commerce and Industry of Belgium (EBA)
	2016	Health Promotion Contribution Award" from Ministry of Health and Welfare

海外登壇者のご紹介



Eun Young Kim

Department of Surgery, Kangbuk Samsung Hospital, Sungkyunkwan University School of Medicine, South Korea

EDUCATIONAL BACKGROUND

2003 – 2009 Medial Doctor
Wonju Medical College, Yonsei University School of Medicine

2017 – 2019 Master of Science
Sungkyunkwan University School of Medicine

2020 – 2022 Ph.D. in Medicine
Sungkyunkwan University School of Medicine

2018 Visiting at Kuma Hospital, Kobe, Japan

PROFESSIONAL TRAINING

2010 – 2014 Residency, Department of Surgery,
Kangbuk Samsung Hospital,
Sungkyunkwan University School of Medicine

2014 – 2017 Fellowship, Department of Surgery,
Kangbuk Samsung Hospital,
Sungkyunkwan University School of Medicine

2017 – 2022
Clinical Assistant Professor, Department of Surgery,
Kangbuk Samsung Hospital,
Sungkyunkwan University School of Medicine

2022 – Assistant Professor, Department of Surgery,
Kangbuk Samsung Hospital,
Sungkyunkwan University School of Medicine

PROFESSIONAL ORGANIZATIONS

Member of Academic Committee, Korean Breast Cancer Society

Member of International Affairs Committee, Korean Breast Cancer Society,

Member of Clinical Trials Committee, Korean Breast Cancer Society,

Member of Public Relation Committee,
Korean Association of Thyroid and Endocrine Surgeons

Member of Korean Surgical Society

Member of American Society of Clinical Oncology

Member of Korean Society of Surgical Oncology

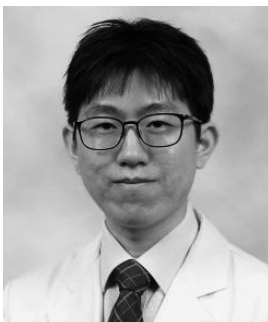
Member of Korean Cancer Association

HONORS

2021 GBCC, Best Poster Award

2018 GBCC, Young Investigator Award

2016 ABCC, Silver Prize Award for Poster Presentation



Min Hwan Kim

Yonsei University College of Medicine, Korea

Education & Career

2003.3~2009.2
M.D., Yonsei University College of Medicine,
Seoul, Korea

2012.3~2014.2
M.S., Department of Medicine, Yonsei University
College of Medicine

2014.3~2017.9
Ph.D. Graduate School of Medical Science and
Engineering, KAIST, Daejeon, Korea

2017.9~2018.2
PostDoc, Graduate School of Medical Science and
Engineering, KAIST

2018.03~ 2019.2
Clinical Fellow, Division of Medical Oncology,
Department of Internal Medicine, Yonsei Cancer
Center, Yonsei University College of Medicine

2019.03~ 2020.02
Clinic Professor, Division of Medical Oncology,

Department of Internal Medicine, Yonsei Cancer
Center, Yonsei University College of Medicine

2020.03~current
Clinical Assistant Professor, Division of Medical
Oncology, Department of Internal Medicine,
Yonsei Cancer Center, Yonsei University College of
Medicine

Medical training

2009.3~2010.2
Internship, Yonsei University Health System,
Seoul, Korea

2010.3~2014.2
Residency in Internal Medicine, Severance
Hospital, Yonsei University Health System

2013.3~2014.2
Chief Resident, Division of Medical Oncology,
Department of Internal Medicine, Severance
Hospital, Yonsei University Health System